

## 社会調査に役立つ統計分析：SPSSワークショップ

2017年2月6日(月)、7日(火)、9日(木)、10日(金) 講師：金明中先生（ニッセイ基礎研究所）



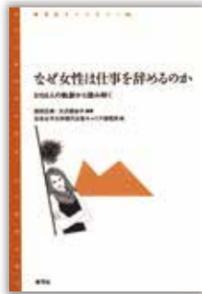
現代女性キャリア研究所では、2012年から毎年学内の学生・教職員を対象として、「社会調査に役立つ統計分析：SPSSワークショップ」を開催しています。今回もメディアセンターの協力を得て、コンピューター演習室で行われました。ニッセイ基礎研究所の金明中先生に、4回の連続講義として、SPSSの基礎知識および基本操作から、データの加工、クロス集計、統計分析の基礎(回帰分析)までをご講義いただきました。今年は新たな試みで2月6日(月)、7日(火)の入門編と9日(木)、10日(金)の基礎編に分け、例年より30分ずつ延長し充実をはかりました。



アンケート結果からは、「先生の解説がわかりやすく、繰り返して説明もあり、理解しながら進むことができました」「とても分かりやすい資料の配付により、今後の研究にも役立ちます」との声が聞かれ大変好評でした。

受講前にSPSS操作の経験が少しある方からは、「入門編と基礎編に分けられていたので、基礎編の方を受講することが可能となり、良かった」「また、帰無仮説の立て方、質的分析と量的分析の検定の仕方を繰り返し教えてくださったので、理解できた」などの記述がありました。

## 『なぜ女性は仕事を辞めるのか ～5155人の軌跡を読み解く～』 増刷決定（第3刷）



青弓社(1600円+税)

2011年に現代女性キャリア研究所が実施した首都圏の短大・高専卒以上の女性(25～49歳)を対象とした調査をもとに、『なぜ女性は仕事を辞めるのか～5155人の軌跡を読み解く～』が青弓社より出版され、好評につき、このたび増刷となりました。

女性の多様なキャリアを詳細に分析するなかから、「女性は結婚・出産で仕事を辞める」という一般的な認識のかけに、女性の就労意欲を十分受け止めず、能力発揮のチャンスを与えてこなかった企業側の問題が浮き彫りになってきました。女性の活躍が求められる今、是非、お読みいただきたい1冊です。

## RIWAC-DA (リワック・データ・アーカイブ)

国際婦人年(1975年)以降に実施された、女性とキャリア(生き方)に関する社会調査を多数収集し、その詳細書誌をデータベース化しネット上で公開しています。

本年度は鈴木春子様(元(財)労働科学研究所 研究員)より多数の報告書をご寄贈いただきました。今後、新たな書誌データを追加予定です。レポートや論文作成、ゼミ報告などに、多様な社会調査をぜひご利用ください。



<http://search.riwac.jp/>

所蔵件数約 1530 件 (2017年2月現在)

## 『現代女性とキャリア』発行

年に一回、『現代女性とキャリア』を発行しています。論文のほか主催した講演会やシンポジウムの記録、研究所の事業活動に関する報告を収録しています。また、投稿論文も受け付けております。詳細はHPをご参照ください。

本書をご希望の方は、切手(1冊400円、2冊以上は要問合わせ)を貼った返信用封筒(B5サイズの入る大きさ)を当研究所へお送りください。



## お願い

現代女性キャリア研究所では、女性とキャリアに関する社会調査のデータアーカイブ(<http://search.riwac.jp/>)を公開しています。

女性とキャリアに関する社会調査資料をお持ちの方は、ご協力お願いいたします。

# News Letter

Research Institute for Women and Careers

RI\*WAC

日本女子大学  
現代女性キャリア研究所

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

TEL 03-5981-3380 FAX 03-5981-3381

E-mail [riwac@fc.jwu.ac.jp](mailto:riwac@fc.jwu.ac.jp) URL <http://riwac.jp/>

# シンポジウム：家族の変化と新しい時代のケアを考える

共催 公益財団法人 家計経済研究所



2016年12月10日（土）開催

超高齢社会となった現在、介護を中心とした家族への「ケア」をめぐる課題が大きくなっています。介護保険施行後15年余りが過ぎ、サービスの選択肢が整備されてきました。その一方で、家族のあり方や価値観が多様化し、女性の就業の進展や雇用不安定化などにより、従来のような家族、特に女性を中心としたケア提供を前提とした体制は限界をむかえています。こうした時代や社会の変化に対応した新たなケアのあり方が求められています。

そこで、在宅を中心とする家族介護者のケアをめぐる現状と課題を、男性介護者（息子介護）や若者（ヤングケアラー）によるケア、さらには介護と育児というダブルケアなど、新たなケアの実態について多角的な視点から捉えること、さらに、家族ケアの実態から、求められる家族支援策、超高齢社会や家族ケアの今後についても考えることを目的として、このシンポジウムが開催されました。

## <第1部> 基調講演

「介護する人（ケアラー）に社会的支援を」と題して日本女子大学の堀越栄子氏による基調講演をいただきました。一般社団法人「日本ケアラー連盟」および認定NPO法人「埼玉NPOセンター」でも活躍されているお立場から、介護者の置かれている状況と介護者支援の取り組みが具体的に示されました。また、過去50年ほどの社会の変化をデータで確認しながら、①だれもが介護し、される時代になっていること、②ケアラーの実情がどのようなものか、③ケアラー支援の重要性についてのご説明をいただきました。

続いて、4人のパネリストから様々な角度からケアの実態とそこでの課題や求められる支援のあり方について報告がなされました。第1報告「在宅での家族介護の負担」では、法政大学の菊澤佐江子氏から、家族介護の負担の実態が報告されました。政府の全国調査データと家計経済研究所の調査データをふまえ、新しい家族状況に対応した介護の社会化を



推進する必要があることが述べられました。

第2報告「ヤングケアラーとして見たこと」では、草加市議会議員の井手大喜氏から、ご自身の16歳からの介護経験について報告がありました。ヤングケアラーが可視化されていない現実や、制度的支援もないまま友人たちのような学校生活や就職活動もできず「(自分だけ) 離されていくな」という気持ちになったことなどが語られました。

第3報告「広がるダブルケアにどう向き合う?」では、NPO法人よこはま地域福祉研究センターの佐塚玲子氏より、子育てと介護の同時進行というご自身の経験や、地域での支援状況を踏まえて、ダブルケアに対応するにはケアサイクルを理解すること、公的サービスと民間サービスの併用活用、孤立化を避けることが重要であることが述べられました。

第4報告「男性性とケア—男の看方(みかた)とその見方」では東京都健康長寿医療センター研究所の平山亮氏から、息子である男性介護者へのインタビュー調査結果をもとにご報告いただきました。介護者に対する期待や要介護者の自立に対する期待がジェンダーによって異なり、この点を考慮しないとジェンダーの再生産につながるという大変興味深い結果が示されました。

## <第2部> 全体討論

全体討論は、フロアからの質問に答えるところから始まりました。ケアラーのサポーター養成における研修内容について、ケアラー支援法案について、ケアラーズカフェへの参加者を増やす方法について、介護者を支援するうえで大切な視点についてなどの疑問に対してそれぞれの立場から具体的な回答がなされました。

最後に、介護者の支援に欠かせないのは、要介護者に対する質の高いケアが提供されることが基本であり、ケアラー自身が問題状況を発信することやケアをするための経済的基盤に関する議論が不可欠である点が確認され、多面的にケアを考える有意義な機会となりました。



# 研究会

家事分担と結婚満足度の傾向：  
アメリカにおける近年の研究動向について



2016年7月13日（木）開催

講師：賀茂美則先生（レイジアナ州立大学）

レイジアナ州立大学で家族社会学を専攻する賀茂美則先生をお招きし、「家事分担と結婚満足度の傾向：アメリカにおける近年の研究動向について」の研究会（於：西生田キャンパス）を開催いたしました。

新たな試みとして、現代女性キャリア研究所(目白キャンパス)との中継を実施いたしました。

「個人的なことは学問的なこと」、「家事分担」、「結婚満足度」、「家事分担と結婚満足度の関係」についてご講演頂きました。

また、西生田キャンパスの学生や先生方の参加も多く、これから卒論を準備する学部生にとっても非常に有益な勉強会となりました。

日本の非正規雇用を理解するために  
(Implications from Ryo Kambayashi and Takao Kato  
“Good Jobs, Bad Jobs, and the Great Recession:  
Lessons from Japan’s Lost Decade”)



2017年2月27日（月）開催

講師：神林龍先生（一橋大学経済研究所）

一橋大学経済研究所の神林龍先生をお招きし、「日本の非正規雇用を理解するために (Implications from Ryo Kambayashi and Takao Kato “Good Jobs, Bad Jobs, and the Great Recession: Lessons from Japan’s Lost Decade”)」の研究会を開催いたしました。

「非正規雇用とは誰のことか」、「非正規雇用増加の背景」、「非正規雇用の処遇改善策」についてデータを用いて丁寧にご説明頂きました。

女性のキャリアを考える際に欠かせない非正規雇用についての定義を確認でき、大変有益な勉強会となりました。

著者に聞く：  
大槻奈巳『職務格差—女性の活躍推進を阻む要因はなにか』



『職務格差—女性の活躍推進を阻む要因はなにか』  
勁草書房（3200円+税）

2017年1月20日（土）開催

講師：大槻奈巳先生（聖心女子大学）

聖心女子大学の大槻奈巳先生をお招きし、職場における男女格差がいかにして作り出され維持されていくのかについて、2015年に出版されたご著書『職務格差—女性の活躍推進を阻む要因はなにか』に収録された豊富な研究成果とそこから導きだされた知見について、ご報告をいただきました。

ご報告から、職場には女性が男性より不利になる構造があり、明確な根拠のない前提によって女性が職場から排除されて職務格差が形成されるメカニズムがあることがわかりました。職能制度から職務を評価した賃金制度の導入、評価基準の再検討などが性別職務分離を解消させる重要な方策となることへの理解が深まりました。

「日本企業における女性活躍」経済政策に関する実証分析  
—韓国・中国企業と労働市場との比較—



2017年3月1日（水）開催

講師：石塚浩美先生（産能短期大学）

産能短期大学の石塚浩美先生をお招きし、「日本企業における女性活躍」経済政策に関する実証分析—韓国・中国企業と労働市場との比較—についての研究会を開催いたしました。

日中韓における、男女別・職位別にみるワークとライフの実状、昇進要因に関する分析、政策課題について、丁寧にご説明頂きました。

日本における「女性活躍」経済政策実現に向けた課題が浮き彫りとなり、今後の解決策なども含めて、活発な議論が交わされ、非常に有意義な研究会となりました。